

怖いコト

龍門 実保

10年以上前、俺が小学生だった頃、授業中に突然校内放送が流れたことがあった。

『緊急放送、緊急放送。ただいま校内に怖いヒトが侵入しています。危険ですので見つけても絶対に近づかないでください』

突然の不審者放送に教室はざわめき、何人かの女子が泣き出す。先生は皆に落ち着くよう言い聞かせていたが、その顔はどこか訝しげだった。

今思えば年齢や性別では無く、怖いヒト〴〵と言う判然としない言葉を選んだこと、生徒に対する「教師の指示に従うように」という指導や、今後の教師の行動についての指示などが全くなかったことなど不可解なことは山ほどあった。

当時の俺は他の子の例に漏れずソワソワと友達と顔を見合わせ、泣いている女子を為す術なく見ていることしかできなかった。

不意に何人かの生徒が校庭を見て騒ぎだす。釣られて目を向けるとナニカが走っているのが見えた。それを見て俺は先程の放送の内容に納得した。

ソイツは男とも女ともつかない見た目で四肢をめちゃくちゃに振り回し、窓を閉じていても

「ヴェオオオホーベボオオオー」

と言う裏返った声が聴こえてくる。その様子はとても人間には見えない。教室に幾重もの悲鳴が響き、先生は急ぎカーテンを閉めようとする。

しかしそれより早くソイツと目が合った。小さく落ち窪んだ両目と窄んだ口はボーリングの指穴のようで、それがじーっと俺を見る。

と、壊れかけの玩具のように手足をバタバタと振り乱しソイツがこつちへ走って来た。カーテンを閉じた窓の外、ガラスを叩き割らんとする勢いでバンバンと拳をぶつける音が響く。先生が急いで俺達を教室から避難させようとする声を聞きながら、俺は恐怖のあまり気を失った。

目を覚ますと保健室のベッドで、校門のある方角から微かにパトカーのサイレンが聞こえた。その日は迎えに来た母親と手を繋いで帰ったのを覚えている。なぜ今になってこんな話を思い出したかと言うと

……。

「ヴェオオオホーベボオオオー」